



No. 13, August 2019

今年の日本は暑い夏を迎えてましたが、ミャンマーの8月は雨期真っ最中。3～5月の暑期よりも涼しいぐらいです。対象地域でも田植がほぼ一段落。もっとも、エーヤワディーでは労働力不足から半数以上が直播です。シュエポーではまだ田植（移植）が多いものの、やはり労働力不足が課題です。これから田植も機械化の並が押し寄せてくるのでしょうか。ミャンマーの農業も大きな転換期を迎えているのかもしれない。

種子課長、種子検査ラボ責任者との協議／ネピドー種子ラボ視察： 新種子課長、ヤンゴン / マンダレー / ネピドー種子検査ラボ責任者とが共に膝つき合わせ、検査ラボの能力強化を話し合いました。地方で設立されている地域検査ラボの人材強化が課題。その実務研修の実施について検討しました。その後、ネピドー検査ラボも訪問。全国の検査ラボの旗艦となるべく様々な設備が拡充されてます。(写真左から1, 2枚目：種子検査ラボ協議、写真左から3, 4枚目：ネピドー種子検査ラボ職員との記念撮影。サンプル種子保管庫)



新種子課長
U Thiha Htun



DAR BS圃場の視察： イエジンにあるDARのBS圃場でも7月～8月にかけて田植えが行われました。今年DAR/DOA/プロジェクトのBSの合同モニタリングが実施されます。(写真左：DARのBS生産プロットパノラマ、写真右：Kyaw Zaya品種BS生産プロット)



コメ売り場の風景： ローカル市場ではコメは計り売り。米を手で直接すくって、匂いや見た目をチェックして買うことが一般的(ヤンゴン市内ダニンゴン市場)



米にカロリー表示が！



ハイエンドなスーパーマーケットでは、精米所独自のブランド名でパックされて売られてます。「ポーサンって沢山あってわかんない、どれが美味しいのよ！」ご婦人が店員に詰め寄ってます。これだけ種類が増えると店員も大変(ヤンゴン市内オーシャンスーパー)

8月はミャンマー各地でも洪水が発生してます。今年の作柄に大きな影響が無いことを祈ってます。HP (<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/029/index.html>) も開設していますのでご覧ください。(編集委)